PHC
Healthcare with Precision

STACIA® CN10 FILE



東山 舞子
主任



永井 美紅
技師



朝倉 亜美
技師

日本赤十字社
諏訪赤十字病院

長野県諏訪市

診療科数	32	病 床 数	455
検査室の構成 (2026年8月現在)	42名(臨床検査技師41名、事務1名)		
検査実施件数	プロトロンビン時間	約24,400件/年	
	活性化部分トロンボプラスチン時間	約22,100件/年	
	フィブリノゲン	約11,100件/年	
	アンチトロンビン活性	約800件/年	
	フィブリン・フィブリノゲン分解産物	約700件/年	
	Dダイマー	約17,600件/年	

地域医療を支える基幹病院として、効率的な精度管理と迅速報告を実現

貴病院と検査室についてお聞かせください

東山主任 (以下、東山)：当院は長野県南信地域の医療を担う 455 床の基幹病院です。地域がん診療連携拠点病院として高度医療を提供するとともに、赤十字病院として三次救急にも対応し、地域医療の中心的な役割を担っています。

検査・輸血部には、検体検査や生理機能検査を担当する「臨床検査部門」と、臨床検査支援を行う「臨床検査支援部門」があります。糖尿病療養支援や NST（栄養サポートチーム）など、多職種によるチーム医療にも積極的に参画しています。

また、臨床検査室の品質管理に関する国際規格である ISO 15189 を取得し、信頼性の高い検査を提供しています。臨床検査技師は 41 名在籍しており、血液部門は 5 ～ 6 名体制で、夜間は当直体制により検査業務を行っています。

CN10を導入した経緯、現在の運用方法を教えてください

東山：装置の更新時期をきっかけに、2 社の装置を検討しました。実は、それまで CN10 のことを知らなかったのですが、「試薬キャップの自動開閉機能」と「試薬安定性」に衝撃を受け、当院検査室の課題解決につながると考えたことが導入の大きな決め手になりました。

朝倉技師（以下、朝倉）：当院では CN10 を 2 台導入し、日中は 2 台稼働、夜間は 1 台を交互に稼働しています。2 台あることでバックアップにもなるので安心して運用できています。

実際に導入してみて、どのような点に魅力を感じていますか

東山：最大の魅力は「試薬安定性の高さ」です。日々の業務で実感しています。以前の装置は、精度管理のデータがなかなか収束せず、補正に多大なマンパワーと時間を割いていました。

永井技師（以下、永井）：特に朝の業務が劇的に変わりました。以前は 8 時半のルーチン測定開始までに精度管理が完了せず、2 時間以上かかることもありました。特にアンチトロンビン（AT）試薬のブランク補正が不要になったことが大きいです。CN10 になってからは、管理幅から外れること自体が珍しくなり、朝のルーチン作業が非常にスムーズになりました。

朝倉：コントロールの準備も楽になりましたね。以前は用時





調製して時間をおく手間がありましたが、今は調製して凍結しておいたコントロールを融解してセットするだけで済むので、時間の短縮に繋がっています。

東山：試薬のオンボード期間が長くなったことで試薬を廃棄することが本当に少なくなりました。以前は AT 試薬の安定期間が短く、夜間は検査依頼時に冷蔵庫から試薬を取り出し装置にセットしていました。CN10 では専用開閉キャップによる長期安定性が保たれているため試薬の出し入れ作業が不要となり試薬の入れ忘れによる結果報告遅延がなくなりました。

効率化されたことで、他の業務に充てる時間は増えましたか

東山：はい。精度管理に費やしていた時間を、患者さんのデータの分析や報告業務に充てられるようになりました。

朝倉：当院では、外来の至急検査について「90% 以上を 40 分以内に報告する」という目標を掲げていますが、CN10 導入後は毎月安定して目標を達成できています。

凝固波形解析機能やクロスミキシングテストの運用はいかがですか

東山：以前の装置では凝固（微分）波形は確認できませんでした。診断に直結させるのは難しい面もありますが、ループスアンチコアグラント疑いの症例で特徴的な波形が見られることもあり、データを蓄積していきたいと考えます。クロスミキシングについては、サンプル希釈調製を自動で行ってくれる分、負担が減りました。以前は手作業だったので「間違えたらどうしよう」とプレッシャーを感じていました。

永井：遅延反応の加温中も 2 時間で CN10 からアラームが鳴って教えてくれるので、忘れることもありません。検査室でよく使うストップウォッチでは 2 時間はセットできないので、些細なことですが助かる機能です。

試薬の運用において変化を感じていますか

東山：プロトロンビン時間（PT）試薬の扱いが改善できたのが大きいですね。以前使用していた PT 試薬は撹拌子が必要で、撹拌子の入れ忘れでデータが狂うリスクがありましたが、コアグジェネシス PT になってからはその心配がなくなりました。

朝倉：装置・試薬の切り替えにあたり、相関データを取得し試薬の特性の違いを把握しました。現時点では臨床側から問い合わせはありません。

当社へご要望はございますか

東山：メンテナンス担当者が定期訪問してくださるのが非常に助かっています。何か気になることは、定期訪問のときに相談すれば解決します。他のメーカーさんではあまりない手厚いサービスだと感じています。至急の時は電話で相談しますが、いつも迅速に回答いただけています。

朝倉：測定終了後の PAUSE（洗浄動作）がもう少し短くなると嬉しいです。ちょうど次の検体の遠心分離が終わったタイミングで装置が PAUSE に入ってしまうことがあり、重なると少し待ち時間が発生してしまいます。今後のプログラムアップデートでの改善を期待しています。



左から永井技師、朝倉技師、東山主任



血液凝固分析装置
全自動血液凝固検査システム
STACIA® CN10
製品情報はこちら

全自動血液凝固検査システム STACIA CN10　特定保守管理医療機器　届出番号 13B1X10144000038

この施設で使用している製品は

体外診断用医薬品

プロトロンビン時間キット
コアグジェネシス® PT

アンチトロンビンⅢキット
クロモレイトATⅢ (C) Ⅱ

活性化部分トロンボプラスチン時間キット
コアグジェネシス® APTT

フィブリン・フィブリノーゲン分解産物キット
エルピア® FDP-P

フィブリノーゲンキット
コアグジェネシス® Fbg

フィブリン分解産物キット
LPIAジェネシス® Dダイマー

使用上の注意につきましては電子添文をご参照ください。

PHC株式会社
www.phchd.com/jp/ivd

【お問い合わせ】

【ホームページ】

202608135 | P2610PHC-01 | 2026年10月作成